

# 課題図書一覧

小学3・4年生

01

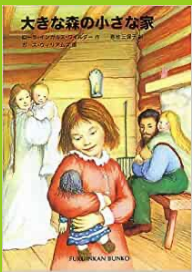
## 日本代表 🇯🇵 『注文の多い料理店』



ある日、二人の男は、山で狩りをしている時、道に迷ってしまいます。お腹も空いたところで目の前には「西洋料理の店」。入ってみると「この店はタダで料理を食べられますが、注文が多いです」という注意書きがあります。「靴の泥を落としてください」、「鉄砲をここに置いてください」「帽子と上着と靴を脱いでください」といった注文に続くのは、なんと「壺の中のクリームを顔や手足に塗ってください」という注文。さて、いったいぜんたい、この店はどういう店なのでしょう？

02

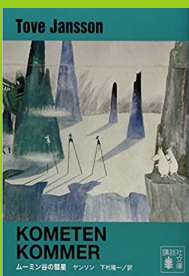
## アメリカ代表 🇺🇸 『大きな森の小さな家』



アメリカといえば世界で一番大きくて強くで発展した国。そんな印象はないかな？でも今から150年前、1870年代にはアメリカは広い大草原と深い森が広がる国でした。この本は、そんな草原と森の世界で、新たに生活を始めたある家族の1年の物語。大自然の中で生きるために、家族は色々と工夫をこらします。冬の寒さを越えるために、秋のうちにハムやベーコンなどの保存食を準備したり、手作りバターを作ったり。自然の中で家族が力を合わせて困難を乗り越えていく、心温まるお話です！

03

## フィンランド代表 🇫🇮 『ムーミン谷の彗星』



日本人の98%が知っているといわれるムーミン（本名、ムーミントロール）。シリーズ全体のほんわかしたイメージと違い、この本の物語は「世界の終わりが近づいている」ところから始まります。長く降っていた大雨が止んだ後、世界は灰色一色になってしまいます。そればかりか、空を望遠鏡でよく観察すると、流れ星が接近してきていて、星にぶつかってしまいそうです。世界の終わりが近づく中、ムーミンたちは最後の時間をどう過ごすのか。そして本当に世界は終わってしまうのか？意外に読んだことのないムーミンシリーズ、どうでしょう？

04

## ロシア代表 🇷🇺 『イワンのばか』



「ばか」というと悪いイメージですよね。「ばか」よりも「頭がいい」方がいいし、「お金がない」よりも「お金がある」ほうが良い。でも本当かな？頭が良くしてお金持ちの方が本当に幸せなんだろうか？そう考えたことはありませんか。ロシアのある家族、3人兄弟の末っ子のイワンのあだ名は「ばかのイワン」。そんなイワンが持ち前の「ばか」な性格で、悪魔を倒し、王様になり、人々を幸せにする話。ぜひ読んでみてください。